

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針  
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に「※」が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	13 英語学科	責任者	米山聖子	
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	B	
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。				
《回答》英語学科は学習成果の測定結果の活用について対応する必要がある、2022年度よりアクションプランを実行中であるため。				
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。			
★<学位授与方針> (記入してください。)			変更	有( ) 無(○)
卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 英語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士 (英語学) の学位を授与する。				
1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1) 英語学および関連領域についての豊かな専門知識を有し、目標学修言語を用いて円滑なコミュニケーションをとることができる。				
2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1) 社会的・世界的なことがらについて、目標学修言語によるメディアからの情報を正確かつ批判的に読み取り、あるいは聞き取り、それについて自分の考えを述べ、また文章にまとめることができる。 (2) 英語学および関連領域についての豊かな専門知識を基盤として、自らの視点から目標学修言語を通して発信することができる。 (3) ITスキルを駆使して収集したデータを分析し、結論を導いて発表することができる。				
3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1) 現在の知識をもとに新しい情報を常に収集し学び続けることで、急激に変わりゆく現代社会に貢献できる能力を有する。				
4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 西洋の文化の理解を深め、東西文化を融合して新しい文化の創造に貢献することができる。 (2) 異文化体験や異文化理解を通じて培った多文化への許容性を活用し、理解ある構成員として多文化共生社会で活躍する				
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。			
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト (大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7			
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。				
《回答》特になし				
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。			
<教育課程の編成・実施方針> (記入してください。)			変更	有( ) 無(○)
教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー) 英語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。				
1. 教育内容 (1) 英語コースおよびヨーロッパ2言語コースの2コース制をとる。英語コースは英語と選択外国語を、ヨーロッパ2言語コースは英語とドイツ語またはフランス語を主たる目標学修言語とする。 (2) いずれの目標言語においても、日常的な事柄について対話するスキルを向上させる授業科目を置く。 (3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題 (グローバルイシュー) について語り、また書く授業科目を置く。 (4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統立った科目群を置く。 (5) 情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。 (6) 自分の力で情報を収集・分析し結論を導き出して発表するスキルを養うゼミナールを配する。 (7) 学問分野で分類された基本科目、学際的な課題 (テーマ) 科目、発展科目からなる全学共通科目を置く。				
2. 教育方法 (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。 (2) 1年次より4年次まで、少人数のゼミナールの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。 (3) 海外での体験学習の受講 (留学) を積極的に推奨する。				
3. 評価方法 (1) 学位授与方針に掲げられた能力の修得度合いを、英語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって形成的に測定する。				

評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。	
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。	
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7	
<b>(DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。)</b>		
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td> DP1. (1) → CP1. (1), CP1. (2), CP1. (3), CP1. (4)  DP2. (1) → CP1. (3)  DP2. (2) → CP1. (4)  DP2. (3) → CP1. (5)  DP3. (1) → CP1. (5), CP1. (6), CP2. (1), CP2. (2), CP2. (3)  DP4. (1) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7)  DP4. (2) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7), CP2. (3) </td> </tr> </table>		DP1. (1) → CP1. (1), CP1. (2), CP1. (3), CP1. (4) DP2. (1) → CP1. (3) DP2. (2) → CP1. (4) DP2. (3) → CP1. (5) DP3. (1) → CP1. (5), CP1. (6), CP2. (1), CP2. (2), CP2. (3) DP4. (1) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7) DP4. (2) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7), CP2. (3)
DP1. (1) → CP1. (1), CP1. (2), CP1. (3), CP1. (4) DP2. (1) → CP1. (3) DP2. (2) → CP1. (4) DP2. (3) → CP1. (5) DP3. (1) → CP1. (5), CP1. (6), CP2. (1), CP2. (2), CP2. (3) DP4. (1) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7) DP4. (2) → CP1. (3), CP1. (4), CP1. (7), CP2. (3)		
<p>★項目(2) 4-2DP1 から DP4 について、それぞれの内容がどのように CP の内容に反映されているのか（あるいは教育課程のどこで具現化されるのか）、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のもので、なおここでは DP1 のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『「日本文学史概説」「日本語学概説」などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p> <p>《回答》</p> <p>「DP1: 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能(1)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(1) 英語コースおよびヨーロッパ2言語コースの2コース制をとる。英語コースは英語と選択外国語を、ヨーロッパ2言語コースは英語とドイツ語またはフランス語を主たる目標学修言語とする。</p> <p>CP1(2) いずれの目標言語においても、日常的な事柄について対話するスキルを向上させる授業科目を置く。</p> <p>CP1(3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。</p> <p>CP1(4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統立った科目群を置く。</p> <p>「DP2: 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力(1)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。</p> <p>「DP2: 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力(2)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP4(4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統立った科目群を置く。</p> <p>「DP2: 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力(3)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(5) 情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。</p> <p>「DP3: 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感(1)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(5) 情報を収集し、分析し、発表するための IT スキルを養成する科目群を置く。</p> <p>CP1(6) 自分の力で情報を収集・分析し結論を導き出して発表するスキルを養うゼミナールを配する。</p> <p>CP2(1) 主体的な学びを促進するために、専門科目においては、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を採用する。</p> <p>CP2(2) 1年次より4年次まで、少人数のゼミナールの履修を必修化し、インタラクティブな教育を実施する。</p> <p>CP2(3) 海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。</p> <p>「DP4: 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解(1)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。</p> <p>CP1(4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統立った科目群を置く。</p> <p>CP1(7) 学問分野で分類された基本科目、学際的な課題（テーマ）科目、発展科目からなる全学共通科目を置く。</p> <p>「DP4: 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解(2)」は以下の CP に反映されている。</p> <p>CP1(3) いずれの目標言語においても、社会的な事柄や経済・環境・人権・開発・女性などの地球的問題（グローバルイシュー）について語り、また書く授業科目を置く。</p> <p>CP1(4) 英語学およびその関連領域の地域の文化、社会、歴史等について学ぶための、入門、概論、研究という系統立った科目群を置く。</p> <p>CP1(7) 学問分野で分類された基本科目、学際的な課題（テーマ）科目、発展科目からなる全学共通科目を置く。</p> <p>CP2(3) 海外での体験学習の受講（留学）を積極的に推奨する。</p> <p>◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。</p> <p>《回答》</p> <p>特になし。</p>		
点検・評価項目(3)	4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	

評価の視点1※	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43 Web サイト シラバス
評価の視点2※	学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラム ツリー
評価の視点3※	専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラム マップ
評価の視点4※	学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点5※	単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9、10
評価の視点6※	教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス
評価の視点7※	編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点8	初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレースメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。
★項目(3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。	
評価の視点9※	教養教育と専門教育を適切に配置している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き
評価の視点10※	学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。 根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラム マップ
評価の視点11	学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。
★項目(3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。	
評価の視点12	職業スキル開拓に必要なだと考えられる科目を学科独自で設置している。キャリアプランニングは半期の必修科目である。その他、選択科目としてキャリアデザイン演習1A（秘書検定1）、キャリアデザイン演習1B（ビジネス検定1）、キャリアデザイン演習2A（秘書検定2）、キャリアデザイン演習2B（ビジネス検定2）を設置している。また、インターンシップ AB という科目を設置し、ボランティアや企業インターンを行う機会を提供している。
★項目(3)4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。	
評価の視点13	英語学科ではライティング1ABの授業を DAITO BASIS の授業として奨励している。英語学科以外の学生にとっても、ビジネスにおいて英語でメールを書く機会などもあることを考えると、英語の書く能力についての授業は有効であると考えられる。
★項目(3)4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。	
評価の視点14	英語学科は2つのコース制（英語コース・ヨーロッパ二言語コース）である。英語学科では専門とする領域を系と呼び、英語コースでは5系、ヨーロッパ二言語コースでは2系の7系を設置し、幅広い学生の興味に対応している。
◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。	
評価の視点15	英語学科は二コース制7系を設置するカリキュラムであり、語学力向上と充実したカリキュラムであるために、コマ数も多くなっている。この問題については2024年度カリキュラムで解決する予定である。
点検・評価項目(4)	4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
評価の視点16	学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9
★項目(4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。 （注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。）	
★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要）。とあります。この場合も単位の实質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
評価の視点17	英語学科では長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生について上限を超えて履修登録については、学科主任もしくは留学委員会が成績を精査し、適切に単位振替科目を決定している。諸資格科目履修に関しては、履修登録は認めるが卒業要件には含まれない（英語学科カリキ
評価の視点18	英語学科では長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生について上限を超えて履修登録については、学科主任もしくは留学委員会が成績を精査し、適切に単位振替科目を決定している。諸資格科目履修に関しては、履修登録は認めるが卒業要件には含まれない（英語学科カリキ

ユラム科目は除く)。制度上は履修の上限を超えて履修登録を認めることができるが、英語学科では履修上限を超えての履修は奨励していない。		履修の手引 2023年度用 (P10)
★(上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。) ①諸資格科目(教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等)履修学生数: 91人 ②長期海外留学終了者 学生数: 0人 ③編入生 学生数: 0人 ④転学部・転学科生 学生数: 0人		《根拠資料》 13-C4-4: なし
評価の視点2※	シラバスの内容(到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示)に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイトシラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	
評価の視点3※	シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	
評価の視点4	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。	
★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料(該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど)を用いて解説してください。		
(1)主体的な学び(演習、実習、フィールドワークなど)の事例		
《回答》 ゼミナールⅢAB とゼミナールⅣAB(合併授業)は学生の興味に合わせて主体的に選択し所属する必修ゼミである。原則2年間同一ゼミに所属して活動する。	《根拠資料》 13-C4-5: ゼミナールⅢAB・ⅣAB(米山)シラバス	
(2)インタラクティブ(双方向)な授業展開のための少人数授業の事例		
《回答》 ゼミナールでは学生と教員とのインタラクティブ(双方向)な授業展開が行われている。	《根拠資料》 13-C4-6: ゼミナールⅢAB・ⅣAB(米山)シラバス	
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例		
《回答》 ゼミナールでは教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会が確保された形で実施されている。	《根拠資料》 13-C4-7: ゼミナールⅢAB・ⅣAB(米山)シラバス	
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例		
《回答》 ゼミナールではグループに分かれて活動している。	《根拠資料》 13-C4-8: ゼミナールⅢAB・ⅣAB(米山)シラバス	
(5)効果的な授業方法について上記(1)~(4)以外の事例		
《回答》 マナバを活用し、反転授業を行っている。	《根拠資料》 13-C4-9: 英語音声学概論ABシラバス	
評価の視点5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
★項目(4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。		
《回答》履修登録に関するガイダンスを行っている。新入生については新入生オリエンテーションで学科のカリキュラムの概要を説明し、新入生の時間制作成の時間をオリエンテーション期間に学科独自で設定し、履修に関する指導を行っている。また、学年末に全学生の単位取得数を確認し、学習の進捗状況が著しく状況が悪い学生に対して面談を行い、適切な履修指導を行っている。		
評価の視点6※	授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導(履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考にURL 記入)	
評価の視点7※	授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイトシラバス	
★項目(4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。		
《回答》授業外学習についてのフィードバックについては授業担当者に任せている。その中には、マナバ上でフィードバックを行う場合もある。	《根拠資料》 13-C4-10: マナバを使った課題の採点例	
評価の視点8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
★項目(4) 4-4⑥授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業あたりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例: 演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)		
《回答》語学の必修クラスについては配当学年の学生は30名の上限をできるだけ守れるように配置している。再履修者を含めると30名を超えることがあるが、おおむね35名までに収まっている。		
評価の視点9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
★項目(4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。		
《回答》学習支援ツールであるマナバをととして学生と授業外学習(予習・復習)や課題提出などを	《根拠資料》	

行っている。事前に課題を配布できることにより、反転授業を行っている。		13-C4-11：英語音声学概論 AB シラバス
◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> 特になし。		
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
評価の視点1※ 【基礎要件○】	成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料	
評価の視点2※ 【基礎要件○】	学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり 根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12	
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。		
<<回答>> ・成績評価が絶対評価に変わり、それぞれの評価の人数が決められたこと。現在は教員の裁量でそのボーダーはあいまいになる場合もあるが、一律の評価方法が正しいかどうかについては今後も検討するべきであると考えられる。 ・E判定とD判定について、母数の扱いによって計算が異なる。教員によって、履修登録前の1回目の授業を除外する場合もあれば、含める場合もある。また、休講を出した場合には母数に含めるのかどうかなど非常勤の先生方から質問があり、学科として確固とした回答は持ち合わせていない。		
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあつては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。 ※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
評価の視点2※ 【評価要件○】	学生の学習成果の測定方法を開発している。 <<学習成果の測定方法例>> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果	
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。		
<<回答>> 2021年度に評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査、語学検定試験等の結果と制定した。		<<根拠資料>> 13-C4-12：22.01.14 教授会-報承2 学科の評価指標および到達目標の設定について（英語学科）
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。		
<<回答>> 語学検定試験等の結果として英語についてはTOEICを定期的に実施、必修クラス編成を4段階のクラス編成に活用している。それ以外の指標については学習成果の測定結果の活用を策定中なので、実施できていない。		<<根拠資料>> 13-C4-13：TOEIC委員会 学科会議資料
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。		
<<回答>> 英語学科は学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査、語学検定試験等の結果の3つの指標とした。指標としては適切なものと考えている。ただ、測定方法については現在アクションプランで検討中であり、測定指標を反映したシステムの構築が求められる。		
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。		
<<回答>> 測定方法の分析方法については現在取り組めていない。今後、アクションプランを着実に実行し、2026年度より実施できるように取り組んでいく予定である。		
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	

	根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023 年度点検・評価シート、B2-52 会議録（または準ずるメール記録）：（開催日）2023 年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。	
<p>★項目(7)4-7①<b>学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。</b> 他大学事例：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。</li> <li>「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。</li> <li>英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理し FD 部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。</li> <li>論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。</li> </ul>		
《回答》	英語に関する学習成果把握の取り組みとして、英語アチーブメントテスト（TOEIC）の結果を学科で管理し、TOEIC 委員会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。	《根拠資料》 13-C4-14：TOEIC 委員会 学科会議資料
<p>★項目(7)4-7②<b>改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。</b> 2019 年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>		
《回答》	英語学科は 2022 年より学習成果の測定結果の活用のアクションプランを実施している。2022 年度課題は現状の把握と方向性についての検討であり、2021 年度に作成した 2021 年度に制定した学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査、語学検定試験等の結果とを評価指標であることとおおむね合致している。2023 年度は具体的な活用方法の検討し、どのように制度に落とし込んでいくかについて検討していく。	《根拠資料》 13-C4-15：3,2022 目標シート（B 票）英語学科 2022-4III-(4-7)

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。  
※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	フランス語圏現地研修・ドイツ語圏現地研修を行っていること、卒業論文指導を行っていることが、学修の活性化に役立っている。また、キャリアデザインという学科独自の就職対策科目を必修として、設置している。また、学科として海外留学を奨励しており、学科独自の留学制度を実施している（ニュージーランド中期留学（3 カ月）、英語学科長期留学（6 月から 1 年：英語圏・フランス語圏・ドイツ語圏）。
-------	---

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。  
※注：複数記述可、ただし 2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	特になし。
--------	-------

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票 Noor 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	6	2022-4III-1(4-7)	(英語学科) 学習成果の測定結果の活用	学習成果の修得を図るための指標と測定方法の開発し、学習成果の測定結果の活用ができるようにする。	年度ごとにマイルストーン（目標値）を設定し、達成できたかそうでないかで判断する。 2022 年度課題：現状の把握と方向性についての検討 2023 年度課題：具体的な活用方法の検討 2024 年度課題：指標と測定方法の問題点の改善 2025 年度課題：学修成果の測定結果の活用の導入と課題修正 2026 年度課題：運用を開始	A：2026 年度課題クリア B：2025 年度課題クリア C：2024 年度課題クリア D：2023 年度課題クリア	2022：回答保留 2023：D 2024：C 2025：B 2026：A

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022 年度＜所見＞</p> <p>アセスメントテスト(例えば TOEIC)を英語のクラス分けに活用し、レベルを 4 段階にし、2022 年度については、9 クラス編成とするなど、学習成果を活用した授業改革を行っていることは評価できる。「学習成果の測定結果の活用の検討」については「学習成果の修得を図るための指標と測定方法の開発」を開発に直結する問題であるのでまとめて対応することとし、2022 年度は現状の把握と方向性についての検討、2023 年度は具体的な活用方法の検討、2024 年度は活用方法の検証、2025 年度は指標と測定方法の評価を行い、2026 年度より運用を開始する予定とされており、着実に改善を進める予定を組んでいる。</p> <p>また、2021 年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査、語学検定試験等の結果としている。活用としては、カリキュラムの検証、DP に示した学習成果との検証、学修支援内容の検討、語学力の確認、英語のクラス分けへの反映としている。これらの測定結果は今後、基準 4 の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p> <p>ゼミなどでは、双方向の授業を行っており、積極的に授業を展開している。また、フランス語圏現地研修・ドイツ語圏現地研修を行っていること、卒業論文指導を行っていることが、学修の活性化に役立っており、評価できる長所である。キャリアデザインという学科独自の就職対策科目を必修として、設置していることも評価できる。</p> <p>ただし「履修登録単位数の上限を超えての履修は認めていない」とされているが、実際に英語学科の教職などの資格科目は、卒業単位数外とされており、cap の外になっていると思われるので、それらの履修への対応が必要であり、資格科目履修者のうち誰も超過していないのかを確認されたのであろうか。確認していただきたい。</p>
--

**2023年度〈所見〉**

学位授与方針に基づいて教育課程が編成されており、英語・そのほかのヨーロッパ言語のコースについても、履修をわかりやすくするようなカリキュラムツリーが作成されており、キャリアを見据えてコースが選べるようになっている。また、留学も学科として推奨しており、そのための単位の適切性の確保も配慮されており、評価できる。

また、TOEICを英語のクラス分けに活用するなど、学修成果を教育に活用していることは評価できる。双方向の授業も多く、成績評価についても学科協議会で議論を重ねる努力がされており、全体評価でBは少々厳しすぎるように見受けられる。さらに2023年度の事業計画について、学修成果の可視化と活用の計画を2026年度までの計画として設定し、学科全体として学修成果の活用に取り組んでいることは高く評価できる。

項目(4)4-4②の回答で「履修登録単位数の上限を超えての履修は奨励していない」とあるが、奨励していないだけでなく、そのような履修登録者に対する対応が必要である。教職課程センターでは、履修単位制限を超えて履修している学生のうち成績下位者には、アンケート調査という形の指導を行っているとの報告を受けているので、必要に応じて学科でも把握されるとよいのではないかとと思われる。

成績評価で、現在問題点としている一律の評価方法に関すること、E判定とD判定について、母数の扱いによって計算が異なることについては、貴学科において検討されているが、必要とあらば全学教務委員会等で確認されてはいかがだろうか。

**◆評価の基準について**

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。 <b>（評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部署の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合）</b>
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。 <b>（評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合）</b>
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

〈注〉「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

**基準4 教育課程・学習成果****【大学基準】**

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

（解説）

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。

